

授業科目名	観光まちづくり論	担当教員	崔 光雄
必修の区分	選択必修		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1 年 第 3 クォーター		
講義内容	近年日本では、観光が国と地域を支える産業として成長し、コロナ禍を経てインバウンドツーリズムに関しても回復と持続的な成長を見せている。インバウンドに関して注目すべきトレンドは、東京や大阪などの大都会を中心とした観光より、徐々に地方まで足を運ぶ観光客が増えていることである。そして観光を通じた地域活性化と地方創生の手段として、「観光まちづくり」が注目されている。 上記を踏まえて本講義では、観光まちづくりの基本的な概念と考え方（主に 6 回まで、前半部）を学び、それをいかに実践するか、どうやって地域において観光まちづくりを進めるべきか(主に 7 回から、後半部) についてとりあげ、理論と実践のバランスを踏まえて学ぶ。		
到達目標	1. 観光まちづくりの基本的な概念と考え方、実践法について理解し、事例を踏まえて説明することができる。 2. 地域社会の現状と課題を理解し、観光まちづくりを通じた解決策について提案できる。 3. 自らレポートのタイトルを設定し、分析および適切にレポートニングできる。		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション、観光まちづくりとは 授業の目的と概要、進め方、成績評価方法などについて説明する。 観光まちづくりの定義と観光まちづくりを学ぶ意義について説明する。 第 2 回 観光計画と観光まちづくりについて 観光計画と観光まちづくりの関係性を学び、日本における観光まちづくりの社会的変遷と現状について学ぶ。 第 3 回 観光まちづくりのステークホルダー 観光まちづくりにおける主要なステークホルダーと求められる役割などについて学ぶ。 第 4 回 観光まちづくりの政策・制度 観光まちづくりに関する政策と制度について学ぶ。 第 5 回 観光まちづくりの経済効果 観光まちづくりの経済効果、地方創生における観光まちづくりの役割などについて学ぶ。 第 6 回 観光まちづくりとサステイナブル・ツーリズム 観光まちづくりの社会・文化および環境への影響について学ぶ。とくに近年の日本におけるインバウンドとオーバーツーリズム問題を踏まえて学ぶ。		

	<p>第7回 観光まちづくりにおけるビジョンの設定 ビジョンを設定する意義と実現に向けて何が必要なのかを中心に学ぶ。</p> <p>第8回 観光まちづくりにつながる地域の見つめ方① 観光まちづくりにつながる地域の個性(風景、魅力、空間構造)を知るためのアプローチ法について学ぶ。</p> <p>第9回 観光まちづくりにつながる地域の見つめ方② 地域の社会構造(つながり、関係性)、人口と交通、観光経済を知るためのアプローチ法について学ぶ。</p> <p>第10回 地域資源を用いた観光まちづくり 地域資源を観光まちづくりにつなげ、地域の魅力をつくるプロセスについて学ぶ。</p> <p>第11回 観光まちづくりと観光事業 観光事業における観光商品化、マーケティング、ブランディング、メディア戦略について学ぶ。</p> <p>第12回 観光まちづくりとリスクマネジメント 地域の災害に関する基本的な情報を把握し、観光まちづくりにいかに反映すべきかを学ぶ。</p>
事前・事後 学習	授業で指示する内容について予習・復習すること
テキスト	テキストは指定せず、オンラインで授業の資料が閲覧できるようにする。
参考文献	國學院大學地域マネジメント研究センター編著『「観光まちづくり」のための地域の見方・調べ方・考え方』朝倉書店、2023年
成績評価 の基準	授業内で実施する小レポートおよびリアクションペーパー（50%）、期末レポート（50%）により評価する。
履修上の注意 履修要件	特になし。
実践的教育	該当しない。
備考欄	必要に応じて「授業計画」を一部変更することがある。